

各位

会社名 北川精機株式会社
 代表者名 代表取締役社長 北川 条 範
 (JASDAQ・コード6327)
 問合せ先 取締役財務部長 岡野 宏
 (TEL: 0847-40-1201)

**特別損失の計上、平成24年6月期第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異
 及び通期業績予想の修正並びに中期経営計画の再検討に関するお知らせ**

平成24年6月期第2四半期において特別損失を計上するとともに、平成23年8月19日に公表いたしました平成24年6月期第2四半期累計期間業績予想と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、最近の動向を踏まえ、平成24年6月期の通期の業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。併せて、平成23年8月19日に公表いたしました中期経営計画の再検討について下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

太陽光発電（P V事業）において、欧州市場の需要縮小と世界的な供給過剰により、販売単価が大きく下落し受注状況が悪化いたしました。今後市場環境が早期に回復する見通しがたたないため、当初想定していた収益を見込めなくなりました。

その結果、P V事業に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に1,552百万円を連結個別ともにそれぞれ計上することといたしました。

2. 平成24年6月期 連結業績予想の修正

(1) 第2四半期（累計）（平成23年7月1日～平成23年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	3,150	△250	△280	△295	△42 40
今回の実績値（B）	1,977	△626	△669	△2,272	△326 61
増減額（B－A）	△1,173	△376	△389	△1,977	
増減率（％）	△37.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年6月期第2四半期)	2,108	△236	△285	△374	△53 81

(2) 通期（平成23年7月1日～平成24年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	8,220	135	85	45	6 47
今回修正予想（B）	3,730	△750	△740	△2,370	△340 62
増減額（B－A）	△4,490	△885	△825	△2,415	
増減率（％）	△54.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年6月期)	5,832	△989	△1,066	△1,166	△167 58

3. 平成 24 年 6 月期 個別業績予想の修正

(1) 第 2 四半期（累計）（平成 23 年 7 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,745	△275	△305	△315	△45 27
今回の実績値（B）	1,442	△630	△673	△2,275	△327 09
増減額（B－A）	△1,303	△355	△368	△1,960	
増減率（％）	△47.5	－	－	－	
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 23 年 6 月期第 2 四半期）	1,700	△223	△290	△385	△55 44

(2) 通期（平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	7,255	50	5	15	2 16
今回修正予想（B）	2,715	△780	△775	△2,380	△342 06
増減額（B－A）	△4,540	△830	△780	△2,395	
増減率（％）	△62.6	－	－	－	
（ご参考）前 期 実 績 （平成 23 年 6 月 期）	4,972	△925	△1,017	△1,276	△183 48

4. 平成 24 年 6 月期第 2 四半期累計期間業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正理由

(1) 第 2 四半期累計期間

【個 別】

当社は、今期よりスタートした中期経営計画に従い、固定費削減等、全社あげてのトータルコストダウンの実施や強化に取り組んでまいりました。しかしながら、米国・欧州の財政問題に伴う円高進行による販売価格の下落、P V 事業において市場が急速に悪化したこと等により、売上高・営業利益・経常利益の修正に至りました。また、四半期純利益につきましては、前述の減損損失の計上により四半期純損失が拡大いたしました。

以上により、売上高 1,442 百万円、営業損失 630 百万円、経常損失 673 百万円、四半期純損失 2,275 百万円となりました。

【連 結】

個別の理由により、売上高・利益ともに予想を下回りました。

以上により、売上高 1,977 百万円、営業損失 626 百万円、経常損失 669 百万円、四半期純損失 2,272 百万円となりました。

(2) 通 期

【個 別】

通期の業績予想につきましては、主力の産業機械事業において世界的な景気減速感の広がりから、設備投資を抑制する動きがあり受注の延期等が発生したこと、P V 事業において市場の早期回復が見込めないこと等から、通期業績予想を見直いたしました。

以上により、売上高 2,715 百万円、営業損失 780 百万円、経常損失 775 百万円、当期純損失 2,380 百万円といずれも減少する見込みであります。

【連 結】

個別の理由により、売上高・利益が減少いたします。

以上により、売上高 3,730 百万円、営業損失 750 百万円、経常損失 740 百万円、当期純損失 2,370 百万円といずれも減少する見込みであります。

（注）上記の予想は、発表日現在における入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

5. 中期経営計画の再検討について

当社グループは、平成23年8月19日公表の「中期経営計画」の方針に基づき、各数値目標の達成を目指して事業を推進してまいりました。

しかしながら、現在当社を取り巻く経営環境は計画公表時の想定と大幅に異なっており、今後につきましても不透明かつ不安定な状況が継続するものと予想されます。

当社グループでは、このような情勢を勘案して現経営計画を一旦取り下げ、今後の計画を改めて検討することといたしました。

新経営計画につきましては、経済情勢や市場動向などの様々な条件を考慮して策定してまいります。

以 上